

# 特集

第2種委員会の取り組み  
フットサル委員会の取り組み  
審判委員会の取り組み  
(一社)札幌地区サッカー協会の取り組み  
小樽地区サッカー協会の取り組み  
北海道社会人サッカー連盟の取り組み



【第2種委員会】

## 全国レベルを目指すとともに



第2種委員会 委員長 石尾 浩一

コロナ禍が明けて 2023 年は全国からトップレベルのユース年代が北海道に集う記念すべき年となりました。また、新たな大会日程や会場使用、リーグ創設などに挑戦した年ともなりました。

### (1)高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ 2023

北海道から8年ぶりに旭川実業高校が参戦することとなりました。気温3度の雨の中、400人以上の観客が旭川実業グラウンドの周りを埋め尽くし、青森山田高校とのホーム開幕戦が行われました。ピッチレベルでの観戦は、選手のレベルの高さはもちろん、表情や息づかい、体のぶつかり合う音も感じられ、迫力のある試合観戦となりました。プレミアリーグ EAST は、前年より2チーム増え12チームでの総当たりが行われ、全22節のうち11節を北海道で行うこととなりました。年代別の日本代表が何人も出場しており、北海道の方々がこのトップリーグから刺激を受け、日常のサッカー基準を上げるきっかけとなってくれることを願っています。

プレミアリーグに参戦しているチームの地域は、年間を通してこの高いレベルの試合を間近に観ることができます。2023 年はとても刺激となる年ではありましたが、今年も全国各地でプレミアリーグが実施されていることを考えると、その刺激を受けられない北海道との間に差を感じてしまいます。2023 年に感じたものを忘れず、再びあの刺激を間近で受けたいと感じました。

### (2)令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

夏には北海道でインターハイが開幕。男子は旭川市、女子は帯広市で開催されました。幸いにも旭川市でプレミアリーグが実施されていたため、インターハイで使用する各会場のシミュレーションを行うことができました。インターハイに向けて、旭川市には芝生の整備を数年前から取り組んでいただき、インターハイを機にサッカー環境がかなり改善されました。大会が始まると全国から多くのチームと観客が集まり、駐車場や観客席が想像していた以上に埋め尽くされ、サッカーへの注目の高さを改めて感じることができました。全国各地から予選を勝ち抜いた強豪同士の試合は見応えがあるのはもちろん、選手のオフザピッチの行動から刺激を受けた方も多かったのではないのでしょうか。この大きな大会を実施したことで、サッカー環境が改善され、多くの方々に感動や刺激を与えることができたことは、大きな成果と感じています。そして、北海道のサッカー関係者が運営に携わった経験は、今後活かされるものと感じました。

### (3)全国高等学校総合体育大会サッカー競技北海道予選会

2023 年からは連戦の疲労によるケガ防止を考慮して、日程を分割して行うこととなりました。高体連札幌支部の札

幌英藍高校が、当番校として札幌 FA 協力もと、新たな大会日程で実施することができました。2024 年は1～3回戦を稚内市・枝幸町で、準決勝・決勝を札幌市で実施しました。高体連名寄支部の当番校である稚内高校を中心に、宗谷 FA と札幌 FA の協力を得て無事に実施することができました。

北海道の高校チーム数が減少しているため、2025 年からインターハイ出場枠が2枠から1枠へ減ることとなっています。そして、チームが減少した各高体連支部や各 FA の全道出場枠についても見直しが検討されています。各 FA で育てた選手を各 FA の2種で活動できるよう、合同チームの編成や登録についても FA と高校が連携を図る機会が増えてくると思われます。お困りの点があれば、ご相談ください。

#### (4) 高校サッカー選手権大会北海道大会

2023 年は1～3回戦を苫小牧 FA で行い、準決勝と決勝を札幌 FA で開催しました。例年とは異なり、準決勝を厚別公園競技場、決勝を初の札幌ドームで実施することができました。札幌ドームを使用するに当たり、費用の面も含めて様々な調整が必要でしたが、多くの方々のご協力のおかげで、決勝にふさわしい舞台を用意することができました。2024 年は1～3回戦を函館 FA で行い、決勝は札幌ドームで実施する予定です。ドーム開催は降雪の心配もなく、日程も全国各地の予選と同時期に実施できます。北海道の代表チームが全国大会で活躍できるよう、今後も様々な面でサポートしていきたいと考えています。

#### (5) 高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2024 北海道 FA リーグ

2024 年よりプリンスリーグ2部に相当する北海道 FA リーグが開幕しました。背景としては、ブロックリーグとプリンスリーグの強度に差があり、プリンスリーグに昇格しても結果を残すことが難しい状況が続いていたため、より良い環境

で力をつけてもらえるよう、プリンスリーグの下に2部に相当する FA リーグを創設することとなりました。広域な FA リーグに参加することで移動等の負担が増すことにはなりませんが、それ以上に拮抗したゲームを通して、参加したチームが力をつけてくれることを期待しています。

#### (6) 高円宮杯 JFA U-18 サッカープリンスリーグ 2024 北海道

12月に行われるプレミアリーグプレーオフについては、2024 年よりプレミアリーグに参加しているチームの多い地域に出場枠が多く割り当てられることとなり、今年度は1枠となっています。プレミアリーグに参加し、戦い続けることは容易なことではありませんが、それにつながるプリンスリーグや FA リーグ、ブロックリーグを支えていきたいと思っています。

#### (7) 令和6年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

2024 年からサッカーについては、暑い夏に行われるインターハイを比較的涼しい地域で固定して実施する取り組みが始まります。男子は福島県、女子は北海道の室蘭市と伊達市で開催します。全国の優秀な女子サッカー選手が冷涼な地でベストパフォーマンスを発揮してくれることを期待しています。そして、多くの方々に観ていただき、北海道のレベル向上につながることを願っています。

以上、2023 年と2024 年の2種委員会の活動をまとめてみました。この他にも各ブロックの2種委員長を中心にブロックリーグを運営しています。また、11月に予定している FA リーグプレーオフも運営していきます。これからも北海道のサッカーが全国レベルとなるような環境を目指していくとともに、サッカーを覚えた子どもたちがユース年代でも気軽に続けていける環境を目指していきたいと考えています。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

【フットサル委員会】

## フットサル日本代表戦と北海道のフットサルの展望について



フットサル委員会 委員長 野呂 雅友

2022年度から委員長を務めております。

日頃より各種フットサル大会の主管を受託していただいている15地区FAの皆様、運営役員の皆様、審判員の皆様には大変感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。フットサルを楽しむ選手の皆様の環境改善と将来のフットサル競技の普及と発展に向けて委員会一同一丸となって、サッカー競技と連携を図りながら邁進していく所存でございます。

さて、すでにご承知のとおり、北海道のフットサルとしては、2020年以来となりますが、2023年12月17日に帯広市総合体育館にてフットサル日本代表をお迎えし、国際親善試合を行いました。主管していただいた(一社)十勝地区サッカー協会の皆様には大会を成功裡に運営していただき改めて感謝申し上げます。対戦相手は、2016年のフットサルワールドカップで優勝した強豪アルゼンチン代表と対戦しました。チケットは早い段階で完売し、観客1,891人で見守った会場は大盛況となりました。あれ程の一体感のある体育館は、私は経験したことはなく素晴らしい会場でした。国際親善試合は東京と帯広市にて2試合行われましたが、東京の試合では、1対1の引き分けの結果でしたので勝負は2戦目に持ち越しとなりました。私はアルゼンチン代表の前日練習を観る機会がありました。JFAの事前情

報では東京で観光して前日練習はしないかも知れませんがと聞いていましたが、実際にはかなり真剣に取り組んでいた印象です。特に印象的だったのは、ウォーミングアップで体育館全面を使い、バレーボール2個でアイスホッケーのように壁ありゴール裏あり天井ありのファール以外のアウトオブプレーは無しで楽しんでゲーム形式でアップしていました。アルゼンチン代表の選手達は、基本はダイレクトプレーでパス回しも正確でした。若い選手が中心でしたが身体の大きな選手が多くフィジカルも強く足元もある選手達でした。



©JFA

試合内容について、私は初めてフットサル日本代表戦を観ましたが、コンタクトについてはサッカーと変わらないか、それよりも激しいと思うプレーが随所に見られました。戦術的

には、シンプルにスペースを使い、ほとんどがダイレクトかワンタッチのプレー。常にトップスピードでピッチを縦横無尽に走り周り、相手競技者に果敢にチャレンジし続ける、疲れる前に交代する。フィジカルとスピードは日本も負けておらず、Fリーグを中心とした代表選手でしたが、日本のレベルはここまで上がったのかという気持ちになりました。結果は、29分にアルゼンチンに先制され、しばらくは攻めきれない展開でしたが、37分に何とか日本が追い付いて1対1の引き分けでした。プレーの一つ一つに会場が歓声で沸き、会場の皆様が高度なフットサルに触れた素晴らしい時間となりました。運営としては、JFA主導のもと、HKFAと十勝FA様と連携しながら短い時間で良く作り上げた運営という印象です。個人的には、ピッチのライン引き作業だけでほぼ5時間を費やし、ミリ単位で調整しながら何度もやり直してラインを引いたことは忘れられません。結局は人の感覚で引いたラインが一番真っ直ぐでした。また近いうちに北海道でフットサル日本代表戦が開催されるように働きかけていきたいと考えます。

今後の北海道におけるフットサル競技の展望について、今の私の考えを述べさせていただきます。私が競技を始めた40年前、北海道のフットサル(当時は、サロンフットボール)は日本のトップでした。しかしながら、Fリーグが創設された2007年以降は、そもそも人口が多いこと、施設の増加に伴いフットサル専門チームの増加したこと等により、どうしても競技人口が多い関東関西に年々押されている印象です。



©JFA

そんな中でも4種と3種の年代のチームは全国大会でも良い結果を残して活躍してくれています。今現在、フットサルを楽しんで真剣に取り組んでいる選手とチームが大切なことは言うまでもありませんが、キッズから繋がる育成年代で男女を問わずこれからフットボールを好きになってくれる子供達を普及・育成していくことが今後のフットサルにとって必要と考えています。そしてそれは、札幌圏に限らず北海道各地域で広く普及していくべきと考えています。フットサルのメリットの一つとして、5人でチームが作れることがあります。なかなか11人はそろわないけど、フットサルであれば5人でチームとして参加できる大会もあると思います。どんどん手軽に参加してプレーできる機会を創設していきたいと考えます。

また、サッカーもフットサルもお互いに北海道のフットボールには無くてはならないと考えます。私は、強い北海道フットボールを築き上げる為にサッカーと共存しながら、お互いの競技で年間を通じて選手・技術・審判・運営が研鑽していけたら良いと考えています。

フットサルの技術の中には、サッカー競技でも役に立つ技術が多く存在します。最近、サッカーの日本代表戦を観ても部分的にはフットサルと共通する戦術もあります。先日、JFAフットサルテクニカルダイレクター小西鉄平氏から、森保監督ほか日本代表スタッフに対して木暮監督がフットサル戦術をレクチャーされたとうかがいました。サッカー日本代表もフットサルを参考にされているようです。

環境改善について、HKFAは地域協会として9地域と繋がっています。他地域の良いものは真似して取り入れ、やってみてダメだったら元に戻す。そんな考え方で皆様から「こうしたら良くなる」というご意見を聴きながら取り組んでいきたいと思えます。

最後に、いつか後輩達が日本のトップであった頃の強い北海道のフットサルを取り戻してくれることを期待しております。

【審判委員会】

## 審判委員会の取組みについて



審判委員会 委員長 藤井 陽一

審判委員会では、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という JFA の理念を念頭にし、JFA 審判委員会が掲げています「全てのサッカーファミリーが「フェアで、安心・安全な試合」を楽しめるように、審判員の育成と、競技規則とその精神の理解・浸透を行う。」というミッションを基本に置き、(公財)北海道サッカー協会の目標の一つである「審判員の養成と質のレベルアップ」に向け、「強化」、「育成」、「指導者」、「女子」、「フットサル」の各部会を設置し、次のような取組みを行っています。

### 【強化部】

北海道サッカー競技全体の底上げを図るため、一つは、将来サッカー1級審判員として活躍できる審判員、もう一つは、北海道のトップレフェリーとして、道内のトップレベルの試合を担当できる技量を兼ね備えた審判員の育成強化を目指し、強化指定審判員制度を設け、北海道サッカーリーグ、北海道学生1部リーグなどでの実践経験の積み重ねと試合後の振り返りを始め、毎月のオンライン研修会、年1回の集合研修会、年数回のフィジカルトレーニング会を実施しています。北海道学生サッカー連盟審判委員会、北海道レフェリーアカデミー事業から審判活動に情熱を持つ若い審判員が多く現れてきています。昨年度も1級審判員を輩出することができましたので、今後も取り組んでいきます。

### 【育成部】

北海道内で開催される各種大会において活躍するサッカー審判員の育成を計るとともに、各地区審判委員会より選出された2級審判員候補者を、講習会を通して2級審判員として認定する事業を通して、「各地区、各ブロックの主要大会、全道大会等、大会の運営に関わることができる楽しさ」、「全道の審判仲間と出会える楽しさ」、「サッカーをより深く理解できる楽しさ」を重点的に審判員に伝えていく活動を行っています。今年度はユース審判員の育成にも力を入れ、審判という形で将来にわたって北海道のサッカーに関わってもらえる仲間を増やしていきます。

### 【指導者部】

審判員の育成・普及には審判指導者の質を高める必要があるということで、今年度からサッカー1級審判インストラクターと2級審判インストラクターの資格更新がポイント制となり、学びの機会を増やす指導者改革が始まりました。2026年4月からはサッカー3級審判インストラクターも同様の制度となります。私たちが目指す、審判員の強化、育成、そして審判仲間を増やすためには審判指導者の方々は大変必要な存在となってきます。

### 【女子部】

女子サッカーを文化にするための一助となれるよう、北海道の女子審判員と審判員指導者の普及・発展に努め、日本および北海道内で活躍するための資質・能力を育成

します。審判委員会としては、道内で開催される女子サッカーの試合は、全て女性審判員で対応できることを将来の目標とし、昨年度、数年ぶりに女性の1級審判員を輩出することができましたので、今後も全国で活躍できる女性審判員の育成強化にも取り組んでいきたいと思ひます。また、現在、Jリーグで活躍している手代木直美さんのように、男子の試合でも活躍できる女性審判員がまた一人でも道内から輩出できるようになっていくことを願っています。北海道サッカー協会が掲げる「女子サッカーの環境整備と発展」という目標に向かって、女子審判員の発掘並びに育成に努めていきたいと考えており、今年度もいくつかの地区協会と連携し女子審判員研修会の開催を計画しています。加えて、女性の審判指導者の育成にも努め、女性審判員が日頃からアドバイスを受けられる体制の構築も目指していきたいと思ひます。

#### 【フットサル部】

全国的に見てもフットサル審判員の登録者数は多い状況にあります。冬場のフットサルの審判活動を行うため、サッカー審判員と兼ねて登録している方が多く、実際、夏場のフットサルの試合で活動できる審判員は決して多くない状況にあります。フットサルの競技力と環境整備の向上

のためには、オールシーズンで活動できるフットサル審判員の普及育成は必要であります。また、現在Fリーグで活躍しているフットサル1級審判員と同じく、日本のトップリーグ等で活躍できる若い審判員の育成強化も必要でありますので、新たなフットサル1級審判員を輩出できるように努力していきたいと考えています。

以上のとおり、関係する方々の協力をいただき各部の取組みによって明るい兆しが見えていることも多くありますが、まだまだ課題も多く、行うべきことは多岐にわたっています。審判員は試合の中で運営面、安全面で大きな役割を担っており、フットサルを含めて、北海道のサッカーファミリー全員が試合を楽しめるために審判員の育成は必須であり、全ての方々に対して競技規則とその精神の理解・浸透を行うことも必要と考えています。

それと合わせて、審判活動を通して大好きなサッカー、フットサルを楽しめることを伝えていきたいと思ひます。

今後も北海道のサッカー・フットサルの発展のために、皆様と共にひとつずつ実現していきたいと考えています。引き続き審判委員会への取組みにご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

## JFA審判委員会のミッション

全てのサッカーファミリーが「フェアで、安心・安全な試合」を楽しめるように、審判員の育成と、競技規則とその精神の理解・浸透を行う。

### 審判委員会のビジョン2030

普及

すべての選手が試合をプレーできるように、審判員を育成する。

育成強化

グラスルーツからトップリーグまで、すべてのカテゴリーで審判員がレベルアップする。

競技規則の浸透

サッカーに触れるすべての人々へ、競技規則および競技の精神の理解・浸透をはかる。

環境の整備

審判員が審判活動を楽しめるために、審判活動を継続的かつ適切に行える環境を整備する。

トップ審判員の輩出

世界のトップレベルで活躍する審判員を継続的に輩出する。

【一般社団法人札幌地区サッカー協会】

## 2023年度の状況と2024年度の重点



一般社団法人札幌地区サッカー協会 専務理事 今枝 映人

2023年のシーズンにつきまして、皆様の理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。  
創立90周年となる2023シーズンは、「札幌地区フットボール100周年に向けた環境の土台づくり～Road to 2033～」とスローガンを掲げ、10年後の札幌地区のフットボール環境をより良い姿を具体化する一年として事業を推進してまいりました。キッズや女子、3種では90周年記念の冠を掲げたイベントを開催させていただきました。  
さて、2023年度登録(サッカー)の最終状況は、団体登録数460チーム、選手登録数12,956名と、昨年度に比べると6チーム減少しましたが、選手登録数は1名の増加と

なりました。具体的には3種、4種チームの減少が多く見られ、中体連チームの合同化や廃部が進んでいるように考えられます。しかし選手数でいえば3種、4種の選手数が昨年度よりも増加しています。ここまで続けてきた普及事業として「安心・安全にフットボールを楽しめる環境づくり」を進めてきた成果が現れてきていると考えられます。2024シーズンは、安心安全なフットボール環境を提供することはもとより、さらにフットボールに関わる情報発信に努めてまいります。今後も引き続き札幌地区のフットボール環境の向上のため、皆様の理解とご協力を何卒宜しくお願い致します。

第64回 札幌市民スポーツ大会 中学生の部



第64回 札幌市民スポーツ大会 一般の部



札幌地区 U15 レディース・U12 ガールズ サッカー交流会 (90周年記念 参加賞をプレゼント！)





## 2024年度 運営方針 【 運営の重点 】

### 1 フットボール環境づくり

- (1) 札幌地区フットボールに関わる情報発信  
(大会や研修会、講習会、イベント等をHPやSNSでの情報発信、ホームページの新規更新)
- (2) 安心安全な事業の開催(感染症対策を含む緊急時を想定した運営体制づくり)

### 2 普及拡大事業

- (1) 年間を通じてフットボールを身近に楽しめる環境づくり(サッカー・フットサル)  
重点事業 (キッズ大集合・女子イベント・ゆめカップ・プロチームとの連携事業)
- (2) 女子チーム・シニア新規チームの創出

### 3 技術力向上事業

- (1) クラブ・マッチウェルフェアオフィサーの養成研修会の実施(ウェルフェアオフィサー制度の活用)
- (2) トレセン活動・指導者養成・審判員養成の充実

### 4 協会組織づくり

- (1) 事務局業務の構造改革(常勤理事の配置を継続、会計業務の効率化)
- (2) 理事会、事務局、各委員会の活性化 (働き方改革、後継者育成、新人登用)
- (3) 定款の見直し (女性理事・外部理事・定年制の検討)
- (4) 規定集の編纂 (HKFA 規定活用の検討)
- (5) マーケティング (自立運営の戦略検討)

サッカーキッズ大集合！！ in SSAP



JFA なでしこひろば



運営協力：札幌大学女子サッカー部 ヴィスタ の皆様

## 【小樽地区サッカー協会】

## 小樽地区サッカー協会の現状と今後の展望



小樽地区サッカー協会 理事長 柴田 靖士

小樽地区(後志管内)の各市町村では人口減に歯止めがかからず、特に、令和5年度の小樽市の出生数は2年連続400人を下回るなど、各市町村とも少子化が加速している。その影響により、休部や廃部、解団をするチームが毎年現れている状況である。また、合同チームで大会に参加をし、何とか活動を継続している2種・3種チームもある。その他、種別が上がるにつれ選手の登録数が減少し、各種別間のスムーズな移行も課題となっている。昨年度より小樽市では部活動の「拠点化」を進め、将来的な地域移行を視野に入れた部活動編成が行われている。その結果、サッカー部が通学している学校にない生徒も拠点の学校のサッカー部に所属し活動できるようになった。しかし、その他の町村では、広域にわたる合同チーム編成で何とかサッカーができる環境を繋いでいる面もある。サッカーを含めた各競技団体が連携し、グラスルーツからシニアまでスポーツに親しめる環境づくりが急務となっている。



全国大会出場 北照高等学校サッカー部

北海道大会の大舞台で、小樽地区の代表として素晴らしい活躍をしているチームが毎年出ている。特に昨年度は、2種年代の北照高等学校サッカー部が「JFA 全日本 U-18 フットサル選手権大会」に、3種年代の Regaris 小樽 U-15

が「JFA 全日本 U-15 フットサル選手権大会」に出場し、全国大会で大いに力を発揮した。また、各リーグでは、CANALE 小樽が道内最高峰の北海道サッカーリーグに、北照高等学校サッカー部がプリンスリーグ北海道に、Regaris 小樽 U-15が北海道カブスリーグ(2部)に、そして、女子の北照高等学校女子サッカー部が北海道女子サッカーリーグに、小樽 Corsario が北海道女子 U-15 リーグ(2部)に昇格し、現在、北海道の各トップリーグに新規参入し躍動している。



全国大会出場 Regaris 小樽 U-15

審判委員会では、月に1回、オンラインで審判スキルアップ研修会を行っている。若手からベテランまで意欲ある審判員が参加しレベルアップを図っている。また、ユース審判員の育成・強化を目的とした小樽地区レフェリーアカデミー(小樽 RAC)に U-18 審判員3名が参加をし、3級審判資格を全員が取得した。今後も早期に若手3級審判員を育成していきたい。

技術委員会では、トレセン活動が通常に行われるようになり各種で実施している。その中で、北海道トレセンのプログラムに選出される選手も出てきている。また、指導者養成として、上級ライセンス取得に挑戦するトレセン指導者

のサポートや、D級ライセンス取得の機会をつくり、全国や北海道で活躍する選手の育成・強化の他、若手指導者の発掘・養成をしていきたい。

キッズ委員会では、キッズフェスティバルを2回行い、各回、総勢150名ほどの子どもたちや保護者、スタッフが参加しサッカーを通じて身体を動かすことの楽しさを伝えることができた。また、幼稚園や保育園への巡回指導を9園で14回行い、のべ300名ほどの子どもたちがサッカーを楽しみ、スタッフは笑顔溢れる子どもたちからエネルギーをもらい実りある活動を行うことができた。キッズリーダー養成講習会には3名の保育士が受講をした。今後は4種委員会や技術委員会、女子委員会とも連携し、更に普及育成を目指したい。



幼稚園・保育園巡回指導



キッズサッカーフェスティバル

後志管内出身選手では、菅大輝選手(北海道コンサドーレ札幌)、山谷瑠香選手(アルビレックス新潟レディース)、池高暢希選手(沖縄SV)、加藤蓮選手(横浜F・マリノス)が現在、国内最高峰の舞台で活躍している。更なる躍進を期待したい。

昨年11月、創立90周年記念式典・祝賀会をニュー三幸小樽店にて開催した。ご来賓を含め、約80名の皆様にご出席をいただき、盛会に終えることができた。祝福をしていただきました北海道サッカー協会はじめ、15地区協会、各スポーツ競技団体の皆様に感謝申し上げます。また、記念事業として10月にサッカーフェスティバルを開催し、小学生からシニアまで多くの小樽地区サッカーファミリーが参加した。秋晴れの中、前段には毎年行っている「芝を大切に作るボランティア」も行い、子どもから大人までサッカーに親しむ2日間となった。



創立90周年記念 功労者表彰



創立90周年記念事業サッカーフェスティバル

最後に、幼児から大人までサッカーを楽しめる環境づくりや、現存の施設の有効活用、グラスルーツからのサッカーファミリー拡大、サッカー・フットサルのリーグ戦環境の向上、各種別委員会や審判・技術委員会との協調に力を入れ取り組んでいきたい。創立90周年を経た今、10年後の100年を見据え、協会一丸となって更に前進できるよう取り組んでいきたい。

2024年度 小樽地区サッカー協会役員

役職	氏名	担務
会長	前田 和男	
副会長	佐々木 義光	
副会長	前田 孝一	1種(社会人・大学)担当
副会長	渡邊 均	2種・技術担当
副会長	本田 亨	検校・リスペクト委員長、4種・シニア担当
理事長	柴田 靖士	総務委員長、3種・審判・F5担当
副理事長	新川 智憲	Web担当
副理事長	中川 綾子	女子担当(HKFA女子委員長)
事務局長	永坂 正	シニア委員長、キッズ担当
常任理事	吉村 充	審判委員長
常任理事	山中 貴司	技術委員長
常任理事	片山 悟	1種(社会人)委員長
常任理事	堀内 心香	1種(大学)委員長
常任理事	宮澤 正行	2種委員長
常任理事	渡辺 司	3種委員長
常任理事	當宮 行博	4種委員長
常任理事	梶原 康裕	女子委員長
常任理事	長名 真三雄	フットサル委員長
常任理事	吉村 英康	キッズ委員長
常任理事	三名木 泰彦	医学委員長
顧問	中村 岩雄	
顧問	鈴木 正三	
顧問	須田 尚見	
会計監査	福田 聖三	
会計監査	馬場 品	

【北海道社会人サッカー連盟】

## 新しい運営の在り方の模索



北海道社会人サッカー連盟 理事長 大橋 穰

平素より本連盟の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

本年4月から、北海道社会人サッカー連盟の理事長を拝命しました。きちんと調べてはいないのですが、連盟の長い歴史の中で札幌圏以外の者が理事長職に就いたのは、おそらく初めてではないのではと思います。自分勝手な思いなのかもしれませんが、良くも悪くもコロナの影響により、今では当たり前になったリモートによる会議等の普及が首都圏と遠隔地の距離を縮めた事が大きかったのではと思います。

もちろん、リモートですべてが片付けられるわけではなく、いろいろな方のサポートがあって、業務が円滑に進められていると感じております。前任の八島さん、事務局の吹上さん、川口さんには本当にお世話をかけていると日々反省しております。しかしながら、札幌圏以外の人間が要職に就いても、きちんと連盟の運営ができるってことを実証する事が、北海道のサッカー界における、これからの新しいスタイルになればと思います。

広い北海道ですが、サッカーに対する思いや情熱はどこにいても変わることはないと思ので、社会人連盟の新たな取り組みが各カテゴリーへのロールモデルになればと思います。

まとまりのない話になってしまいましたが、今後とも社会

人連盟の活動に対して、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしく願いいたします。

## 第30回全国クラブチームサッカー選手権大会

主 催 公益財団法人日本サッカー協会・一般財団法人全国社会人サッカー連盟  
主 管 公益財団法人北海道サッカー協会、北海道社会人サッカー連盟、  
一般社団法人十勝地区サッカー協会  
後 援 共同通信社、北海道新聞社  
開 催 日 2023年9月30日(土)～10月3日(火)  
試合会場 幕別町運動公園陸上競技場  
帯広の森球技場

